

# Viva Kango

No.45

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1 TEL (0157) 66-3311 FAX (0157) 61-3125  
mail to:kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

発行日/2017年3月1日  
編集・発行/広報委員会



日本赤十字北海道看護大学

## 日本赤十字 6大学学生交流会

三年水本有威



二〇一六年八月二十三日から八月二十四日にかけて6大学学生交流会が九州の福岡にある日本赤十字九州国際看護大学のキャンパスで開催されました。6大学学生交流会とは、北海道、秋田、東京、愛知、広島、福岡にある赤十字看護大学に在籍する学生が、夏休み期間中に学生同士の交流を深める目的で行われています。この交流会は、毎年開催する大学を変え、大学の支援を受けながら学生が主体となり運営されています。学生

交流会初日には、熊本地震発災時に活躍された日本赤十字社熊本県支部や、熊本赤十字病院の職員の話聞き、発災当時のエピソードを教えてください、改めて震災の恐ろしさや、看護師として震災が起きた際にどう行動しなければならぬのかを考えるきっかけになりました。また、大きな被害をうけた益城町に訪問し、被害の大

同士の交流がメインですが、それだけではなく赤十字の大学の特徴を生かし、各地域の災害の特徴、赤十字関連施設への訪問、被災地訪問など、実際に赤十字の活動に触れる内容となっています。今回は、本学から八人が参加し、6大学全体ではおよそ五十人とかんがりの人数での交流会となりました。交流会のテーマは、「熊本地震における災害救護と防災として、看護学生として何ができるか、地域の一員として何ができるか」とし、これを考えるディスカッションも行われました。

この6大学学生交流会に参加してみて、北海道から九州までの全国の学生が集まっているため、方言、習慣、校風の違いなどを感じ、様々な価値観に触れることができました。また、同じ赤十字であることや、同じ看護師を目指してい

最終日には、各大学それぞれの実習着に着替えて大学の紹介を行いました。学生同士の交流を深めました。また、掲げたテーマについて二日間の総まとめとして、大学別に分かれたチームでディスカッションを行い、全体で問題点や共感する点を共有しました。



ることから、サークルで行っている災害支援の話であったり、どのような看護師になりたいのかなど、夜遅くまで語り合いました。この6大学学生交流会があったおかげで全国に知り合いができ、知り合った仲間同士で旅行に行ったり、キャンプをしたりなど人の輪が広がりました。来年度は北海道が開催地なので、多くの学生が参加して、貴重な経験をしてほしいです。

# 卒業生リターンズ特集

Vol.2

基礎看護学領域 助手 種本純一

母性看護学領域 助教 尾栢みどり

母性看護学領域の尾栢みどりです。私は本学の二期生です。今、こうして教員として母校に戻って来ている自分はその頃全く想像していなかったの少々不思議な気分です。正直に申し上げて、私は学生の頃、母性看護学は苦手な分野でした。沢山のホルモンの名前が出て来たり、母性独自の乳房の変化についてなど、なかなか理解できなかった自分を思い出します。今は、皆さんにそれらについてわかりやすく説明するにはどうしたら良いか日々模索しております。

そんな母性が苦手だった私が助産師の職業に憧れたのは、母性看護学実習を通してです。実習で出産の場面に立ち会うことができ、その際に産婦を励ましながら赤ちゃんを取り上げる助産師の周りにキラキラのオーラが見えました(本当です)。お産の場面に立ち会うことができてももちろん感動でしたが、そこで一番心に残ったのは「助産師ってかっこいい!」と

皆さんも将来の自分をイメージしながら一日一日を大切に、有意義な学生生活を過ごして下さいね。沢山の可能性を秘めている後輩の皆様のご活躍を楽しみにしております。

領域別実習は学生生活の中でも一年を占め、時には辛いことも沢山あります。しかし、自分が将来どんな風に看護職として活躍したいか、そんなきっかけがつかめる機会にもなると思います。



本学の三期生、基礎看護学領域の種本です。二〇〇五年に本学を卒業してからは、北見赤十字病院の循環器内科・脳神経外科・放射線科の混合病棟で七年間看護師として勤務していました。

くれたのは学生時代の友人たちでした。彼らとの関係は、卒業して十年以上経った今もまったく変わっていません。現在学生の皆さんも、卒業までの四年間を通し生涯に渡って支え合い、笑い合えるような仲間と巡り合ってほしいと思います。

毎日が楽しくて仕方がない、そんな学生時代を送っていました。が、学業に関しては決して誉められた学生ではありませんでした(当時の自分を今の自分が指導するのは恐らく無理です)。そのため臨床で働いてからは、先輩方から厳しいお叱りの言葉を受け続ける毎日でした。そんななかでも一年、二年……と、仕事を続けるうちに少しずつ、本当に少しずつではあります、仕事を、看護をするとはどういうことなのか理解できるようになっていきました。そんな私だからこそ、後進に伝えられることがあるのではないかと考え、看護教員としての道を選びました。当時の経験は、今では大切な宝物です。ここまで私を導いてくれた素晴らしい先生方、上司、先輩方、後輩たち、そして患者さんとの出会いすべてに感謝しています。





# 看護課題実習

## ■北見赤十字病院

四年 吉川 里紗

私は、北見赤十字病院七階東病棟において、看護課題実習を行いました。

七階東病棟では、メンバー業務やリーダー業務、管理業務のシャドウイングを行い、多重課題への対応やマネジメントの工夫などを学ぶことができました。また領域別実習では参加することができない病棟スタッフカンファレンスにも、チームの一員として参加させていただきました。

この実習では自分が就職希望の病院で実習を行うことができ、実際に自分が働く姿をイメージする機会となりました。またチーム医療における看護職の役割や、臨床に出るにあたっての自己課題が明確になりました。さらに北見赤十字病院の看護理念に基づき、仕事にやりがいを持ち、自己成長できるように看護能力を高めていきたいと感じました。

看護課題実習は今まで得たすべての知識を活用しながら、大学生活二年半の学習を統合することができました。これからの課題実習を控えている皆さん、日々の学習の積み重ねを大切に、向上心を持って頑張ってください！

## ■旭川赤十字病院

四年 吉原 香琳

私は、看護課題実習では、旭川赤十字病院で実習をさせて頂きました。

私は、旭川赤十字病院に就職予定のため、実習を通して将来の就職先や所属したいと考えている病棟について、実際に自分の目で見て、知ることができ、自分の将来の就職へのイメージを固めることができたと思います。

旭川赤十字病院には、ドクターヘリがあり、道北におけるの救急医療における旭川赤十字病院の役割について深く学ぶことができました。また、実際にドクターヘリに乗る貴重な体験も経験できました。



四年生最後の看護学実習ということもあり、今までの実習で得た知識や、経験を生かしながら実習に臨み、自分の看護観について考えることができたと思います。

これまでの実習での経験が、きつと生きてくる実習であると思いますので、グループで支え合いながら実習を頑張ってください！

## ■釧路赤十字病院

四年 丸田 いずみ

こんにちは。四年生の丸田いずみです。

看護課題実習は、主にシャドウイングで患者さんへの関わりは多くありませんが、その中で看護マネジメントやメンバーシップ、リーダーシップについて学び、自己の課題と看護観がより明確になったと感じています。

看護課題実習では、患者さんへの安全・安楽な看護の提供の中で、優先順位と時間管理の必要性について学ぶことができました。領域別実習では患者さんの個性など考えながらケアを考えて実施していても、援助を行う時間や実施するケアの優先順位など、患者さんを通してではなく、自分主体となった計画になっていたのではないかと改めて振り返る機会となりました。

実際の病棟看護師さんの業務内容や流れを知ることができ、看護職員と

して働くうえで必要なことや、新しい視点で看護を見つめ直すことができます。みなさんも、自分の看護を改めて振り返り、学びを得られる実習となるように応援しています。

## ■置戸赤十字病院

四年 大桃 千尋

看護課題実習では、就職先の病院に実習に行ったのでも緊張しましたが、複数の患者さんへのケアを実践する看護師に同行し、優先順位や時間管理について学びました。今までの実習では、一人の患者さんを受け持たせてもらい看護を実践してきたので、あまり時間を意識せず

に実習を行ってきたと感じます。しかし、複数の患者さんを受け持つ場合には、患者さんの状態や、検査や処置の有無などといった情報から、ケアの優先順位を判断し、患者さんが適切な時間に適切な看護を受けられるよう時間管理を行うことの大切さを学びました。

看護課題実習では他にも、病棟管理実習やチームリーダー実習もあり、基礎看護学実習や領域別実習ではあまり関わることがなかった看護師長やチームリーダーの役割について学ぶことができ、それぞれの実習を通して、看護チームの一員として自分が何をすべきなのかということにも気が付くことができました。

後輩のみなさん、勉強に実習と大

変だと思いますが、友人と支え合いながら頑張ってください。

## ■小清水赤十字病院

四年 江口 晴香

こんにちは。四年生の江口晴香です。

私は看護課題実習を通して、自らの看護観が明確になったと感じています。

看護課題実習では領域別実習を踏まえて、自分自身の課題の克服やチームリーダー・チームメンバーの役割について学ぶことができます。

私は、看護課題実習に臨むにあたりこれまでの領域別実習を振り返ると、患者さんに対して何かの援助を行う際にその援助に熱中してしまい、患者さんの反応を心から捉えることができていなかったことに気が付きました。そのため、看護課題実習では自分の援助よりも患者さんの反応を第一に優先して援助を行っていたことを考え実習を行いました。このことが結果として冒頭で述べたような自らの看護観の明確化に繋がったという形です。

領域別実習を終えた後だからこそ学べるものがたくさんあり、自分自身の看護を見つめ直す良い機会にもなると思います。みなさんそれぞれ大変だと思いますが、充実した実習となるように陰ながら応援しています。

## 基礎看護学 実習Ⅰ

たり北見市内の高齢者クラブや高齢者大学の行事、サークル活動へ参加し、看護を学ぶうえで必要であるコミュニケーションの実際を学びました。その後、学内でのグループワーク、全体会により体験を共有し、さらに学びを深めました。

基礎看護学実習Ⅰは、一年次前期の七月に実施されました。本実習は、1. コミュニケーションに関する過去の体験を振り返り、コミュニケーションの概念、種類、構成要素、過程の理解、2. 対象者への自己紹介および、コミュニケーション技法を用いた体験の実施、3. 教員と適切なコミュニケーション（報告・連絡・相談）の実施、4. 自己のコミュニケーションの振り返りを通して、自分の特徴を知り、自らの目標と今後の課題の明確化、の四項目を目標として掲げ、地域に暮らす健康な人々とのコミュニケーションを通して、人間や社会への関心を持ち、看護を学ぶうえで必要となる初歩的な人間関係を体験すること、さらに実習での体験を今後の学習に役立てることをねらいとしています。

学生は事前に一日のスケジュールや現地までの交通手段を計画したうえ、これまでのコミュニケーション体験や学習、対象である高齢者の特徴や活動内容をふまえながら、事前の準備学習を行い、コミュニケーションについての理解を深めていました。また、囲碁・カラオケ・ダンス、茶話会などの高齢者クラブのサークル活動や、運動会、絵手紙づくり、講義研修といった高齢者大学の行事への参加では、楽しさの一方、家族や友達以外の初めて会う異なる世代との普段通りにいかない会話に戸惑いながら、自分自身の振り返りを通して、自身の目線、表情、声の大きさ・トーン、しぐさなどを相手に合わせて変化させ、相手の表情や反応、会話が変化することを実感していました。さらに、より幅広い世代と関わる看護師を目指す学生である自分達は、人間や社

会への関心をもって、知識や言葉、共通の話題を増やす必要があることや、教員との関わりからは報告・連絡・相談の重要性を強く感じ、自らの目標や今後の課題を明らかにしていました。

多くの方からの「頑張ってる」「立派な看護師さんになってね」との言葉に、自分達への期待を感じ、今後の学習および将来への動機付けとなっていました。高齢者クラブ、高齢者大学をはじめとした地域の皆様のご協力により、学びの多い有意義な実習を実施することができ、心より感謝いたしております。



## 基礎看護学 実習Ⅱ

変な一週間だったと思います。しかし、患者さんと接し、体験を通して「看護」を考え、学ぶことの楽しさもわかったようです。学生たちは、これからの学習へのさらなる動機付けを高め、さらに看護職を目指す意志の確立に繋がったようです。

これからもっと多くの学習体験を通して素敵な看護職を目指し頑張ろう!!

二年次科目として、初めて患者を受け持ち看護を学ぶ基礎看護学実習Ⅱが、十一月十八日から十二月十六日までの期間、前半と後半に分かれ実施しました。

この実習は、「健康上に問題のある個人（患者）との人間関係を形成しながら生活者としての患者理解を深める。また、患者の健康状態を把握し、患者の健康を最大限に回復・維持・促進するために必要な看護の実践を学ぶ。」ことを目的としています。

開始前には、実習を体験した三年生より心構えなどの話を聞き、また学科・実技共に学内で学習を重ねスタートしたものの、患者さんと接するのも、臨床のスタッフから指導を受けるのも、そして実際に援助を行うことも、何もかも初めてのことはかりで緊張の連続だったと思います。実習には多くの知識と豊かな思考力が大切であることを痛感し、記録と格闘し大

